

LIBRARY



第82号

茨城県立神栖高等学校 図書委員会

平成27年7月18日発行

「本との出会い」

「人生の指針、また娯楽としての本との出会い」

第十八代校長 野口 正男

私が高校時代のことである。当時の現代文の先生が、ある事件にシヨックを受けて学校を休んだという話をされた。それが教員としてか学生としてかは定かではない。とにかく、学校を休むほどのシヨックだったらしい。その国語教師は、小説家・三島由紀夫に心酔し、どこことなく風貌もまた三島に似ていた。いや、今となつては似ていたように思ひ出される。昭和四十五年十一月二十五日。その日は、三島の決起日でもあり、命日ともなった憂国忌である。知行合一の陽明学に傾倒していた三島は自衛隊市ヶ谷駐屯地で自衛隊員に檄を飛ばし、その約五分後に割腹して果てた。当時私は十一歳の小学五年生で、何となくエライこととが起こつたんだなと察した記憶がある。三島の死後五年が経つた高二のとき、件の国語教師の影響で三島作品を何冊か読んだのが、読書を習慣とした最初であるように思う。「憂国」「仮面の告白」「美德のよるめき」……。哲学的かつ格調高い

文体に肩が凝つた。

高三の頃、一気に読破したのは司馬遼太郎の「竜馬がゆく」全八巻。この辺りから天下国家を高所大所から論じ憂える幕末の志士に興味を持ち始めたが、将来高校で日本史を教えることになるとは想像すらしていなかった。何故なら私は理系クラスであつたからだ。数学Ⅲや物理の問題を解きながら、背中に悪い汗をかいていたのを思い出す。

大学時代に、銀座で古い名画ばかりが掛かる並木座という映画館にぶらっと入つてみた。そこで鈴木清純監督の「けんかえれじい」に衝撃を受け、原作（鈴木隆）を読み耽つた。旧制のバンカラ中学生である主人公・南部麒六が喧嘩修行に明け暮れる痛快青春物である。

かくの如く、私には映画から入り、原作を読むという傾向があり「異人たちの夏（山田太一）」「泥の河（宮本輝）」「鉄道員（浅田次郎）」等に触れた。何となくノスタルジックで郷愁を覚える作品群である。「泥の河」の主人公の少年・信雄の父である食堂の主人（映画で

は田村高廣）は、私の理想の父親像となつている。

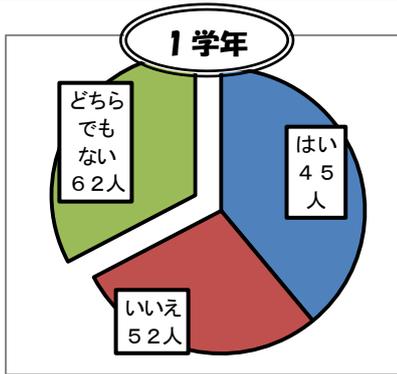
現在、常に身の回りに置いてあるのは松本清張である。人間の業の深さと、巨悪の主が自滅していく姿を描いているところに魅力を感じる。しかし、読後は疲れるので、気軽に読める浅田次郎のエッセイ集で休憩を取る。そして、また清張物を読むというのが私の読書スタイルである。

忙しいときに限って、猛烈に読書がしたくなる。近い将来訪れる「毎日が日曜日」状態でも同じだろうか。それまで人生の指針として、また娯楽としての読書を楽しみたい。

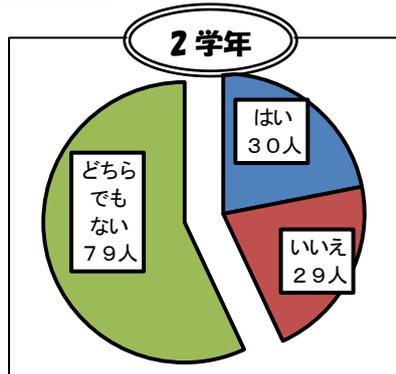


アンケート集計結果

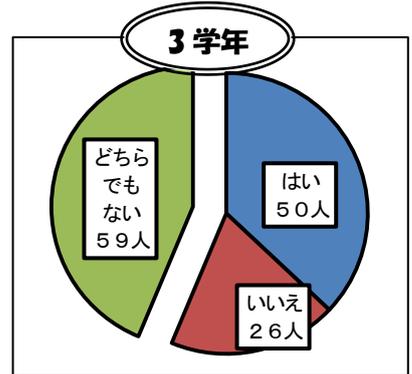
神栖高校生の読書に対する意識を調査しました。



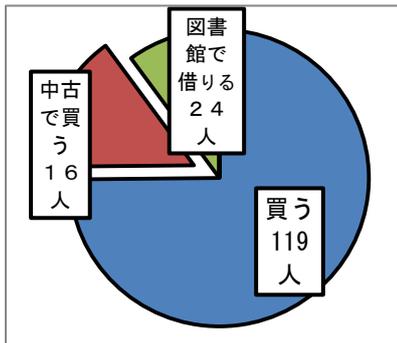
1.あなたは読書が好きですか？



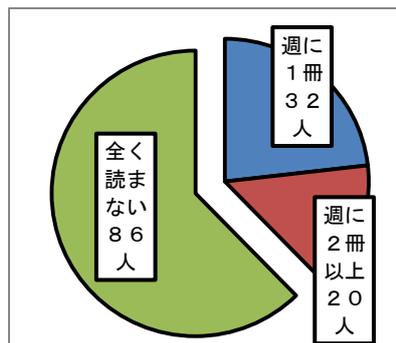
1.あなたは読書が好きですか？



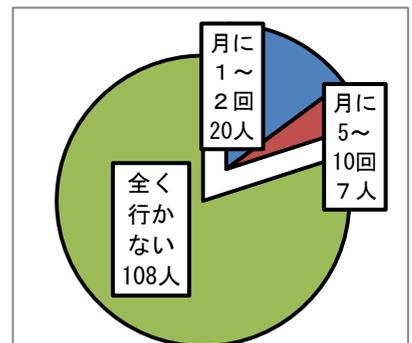
1.あなたは読書が好きですか？



2.読書する時は本を買いますか？
借りますか？



2.あなたは週にどれくらい
本を読みますか？



2.図書館に行く頻度は
どのくらいですか？

* 読書の効果に関する調査結果によると..... *

自分に自信がついてくる

『物事を続けて積み重ねていくこと』それ自体に、その人の内面に自信をつけさせる効用がある。
読書を楽しんで続けていくことによって、知らず知らずのうちにそういったメリットも享受することができる。

能力アップが可能

- (1) 集中力の持続時間が長くなる。
- (2) 物語の理解に必要なスキルが得られる。
- (3) 読書を通じて異文化への理解が深まる。

語彙力が
増します！

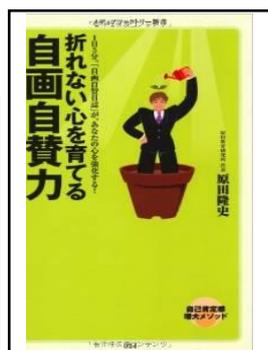
『夢を実現するために行動力を身に付けよう』

行動力とは、自分の意志をもって行うことです。決めたことをやりぬくことです。しっかりと計画を立て判断し、決断する実行力をいいます。

図書室で「行動力を身に付ける本！」を見つけよう！

『なでしこから学ぶ 最強のフォローシップ』 東明 有美

なでしこジャパンのメンバーは、人生をかけて努力し、挫折や苦悩をのりこえて夢を実現した。いまの状況をなんとかしたい、もっと自分の力を発揮したい。そんなあなたに最適の本。



『折れない心を育てる』

原田 隆史

がんばっているのに成果があがらない、夢がもてない、自分のいいところを見失った。そんな人が、成功を手に入れるためには、自分自身を信じる力=自画自賛力の育成が欠かせない。自分を見つめることを習慣化し、着実に自信を増大させ、心が折れなくなるための一冊。

対談

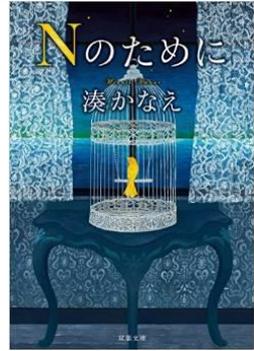
読んで欲しい
定番作品

『アリアドネの弾丸』
海堂 尊



事件の謎を解くというこ
とに集中して読める作品。
テンポのよい文章で大学病
院で起こった事件の数々を
主人公が完全無欠のトリッ
クで挑む。司法と医療の戦
いを主軸にした作品。

『Nのために』
湊 かなえ



超高層マンションの一室で、
そこに住む野口夫妻の変死
体が発見された。現場に居
合わせた男女証言は驚くべ
き真実を明らかにしていく。
なぜ夫妻は死んだのか。切
なさに満ちた、著者初の純
愛ミステリー。

『火車』
宮部 みゆき



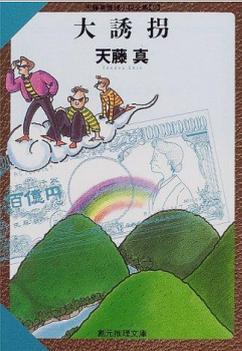
多重債務問題を背景にし
たミステリー小説。休職中
の刑事が、親戚の若者から
頼まれたのは、失踪した婚
約者を捜すことだった。苦
勞して見つけ出した人物は
別人だった。ミステリーと
しての完成度と、社会性を
兼ね備えた作品。

『疾風ロンド』
東野 圭吾



上司から生物兵器の回収
を命じられた研究員が、と
あるスキー場に向かった。
頼みの綱は目印のテディベ
アのみ。圧倒的なスピード
感で、予想を覆す衝撃の結
末がおもしろい。

『大誘拐』
天藤 真



何よりもキャラが良い。メ
インになつて動く誘拐犯と
誘拐される登場人物。もし
て、それを追いかける警察。
それぞれが真剣になつて突
き進んでいく様は、物語の
テンポもあつて読んでいて非
常に臨場感がある作品。

『そして誰も
いなくなつた』
アガサ・クリステイ



その孤島に招き寄せられ
たのは、たがいに面識もな
い、職業や年齢もさまざま
な十人の男女だった。ラス
トを読むまで全く犯人がわ
からない展開に満足する。

『果つる底なき』
池井 潤



江戸川乱歩賞受賞の金
融ミステリー。謎の言葉
を残して、債権回収担当
の銀行員が死んだ。彼の
ため、何かを失いかけて
いる自分のため、主人公
はただ一人、銀行の暗闇
に立ち向かう。

『点と線』
松本 清張



九州博多付近の海岸で発
生した事件。その裏にひそ
む恐るべき汚職事件にか
らんだ複雑な背景と、容疑
者の鉄壁のアリバイの前
に立ちすくむ捜査陣……。
列車時刻表を駆使した推理
小説界の秀作。

『その女アレックス』
ピエールルメートル



一気読み必至の大逆転サ
スペンス。貴方の予想はず
べて裏切られる展開となつ
ている。孤独な女アレック
スの壮絶なる秘密が明かさ
れるや、物語は大逆転を繰
り返し、最後に待ち受ける
慟哭と驚愕へと突進する。

図書委員研修会に参加して

実施日 平成二十七年六月二十二日
会場 茨城県立玉造工業高等学校

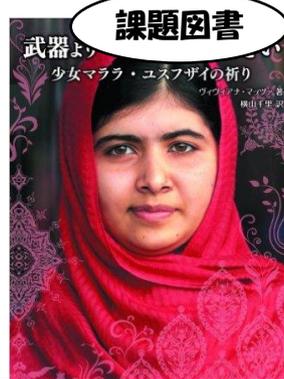
三年D組 佐藤 拓実

私は、今回の読書会に参加し、本を読むことの大切さを感じました。午前中は課題本ごとのグループワークと午後には実施されたビブリオバトルに参加しました。本を読むことは、友人とのコミュニケーションのきっかけになったり、活字離れを防いだり、さらには、本の知識を自分の知識として得ることができそうです。

このように、本を読むことの大切さを研修会に参加することで再確認できました。とても有意義だったので、次の研修会にも参加したいと思いました。



この読書会のおかげで、自分では気づかなかった作者の心情や、考え方に近づけました。また、同じ高校生からの意見や主張を聞いて、良い刺激を受けました。



課題図書

『武器より
一冊の本をください』
著者 **ヴィヴィア+・ムツァ**

二年D組 劔地 ひかる

私が参加したAグループの読書会では、会場高である玉造工業高校の生徒が中心となって、話し合いを進めてくれました。私は難しい話し合いをするものだと思っていたのですが、実際の読書会は違っていました。課題本の内容を元に、私たち参加者の経験や身近に起こった出来事などを、それぞれが思い思いに話すのです。徐々に楽な気持ちで話し合いに参加していました。

私は「研修会＝硬いイメージ」が強く、読書会が始まる直前まで不安でした。しかし、司会の方たちのおかげでやわらいだ雰囲気で行うことができました。そして、発言もとてもしやすく感じました。

二年D組 中澤 瑞稀

午後には実施されたビブリオバトルでは、練習の時よりもゆっくりと落ち着いて本の魅力を話すことができました。特に、参加者の方たちと共感できることが多かったため、研修会が終わってからも本の話題はもちろんのこと、それ以外の話題で楽しい時間を過ごせました。

この研修会では、いろいろな意見や解釈が聞けて、本当に良かったと思います。また参加したいと思っています。



ビブリオバトル

とは
京都大学から広まった輪読会・読書会、または勉強会の形式で「知的書評合戦」とも呼ばれている。

公式ルール

- 1 発表参加者が読んで面白かった本を持って集まる。
- 順番に一人五分間で本を紹介する。
- それぞれの発表の後に参加者全員で、その発表に関するディスカッションを二〜三分行う。
- 4 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか」を基準とした投票を参加者全員一票で行う。最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。

課題図書



『高校生レストランの
奇跡』
著者 **岸川 政之**



『「また、必ず会おう」と
誰もが言った。』
著者 **喜多川 泰**